



子宮頸がんについて

- ✓ わが国では女性のがんの中で罹患する人が多く、特に30～40歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。
- ✓ 検診を受けることで、がんになるリスクや死亡リスクが減少します。
- ✓ 検診は2年に1度定期的に受けてください。ただし、月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ✓ 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- ✓ 精密検査はコルポスコープ下の組織診・細胞診・HPV検査などを組み合わせて行います。
- ✓ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合もあります。
- ✓ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。[※]

※精密検査の結果は市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

がん検診に関するお問い合わせ先

○お住まいの市町村窓口にお問合せください

各市町村がん検診お問合せ窓口

平成29年12月現在

市町村名	窓 口	電話番号
那覇市	那覇市保健所 健康増進課	098-853-7961
宜野湾市	健康増進課	098-898-5583
石垣市	健康福祉センター	0980-88-0088
浦添市	健康づくり課	098-875-2100
名護市	健康増進課	0980-43-9006
糸満市	健康推進課	098-840-8126
沖縄市	市民健康課	098-939-1212 (内線2240)
豊見城市	健康推進課	098-850-0162
うるま市	健康支援課	098-973-3209
宮古島市	健康増進課	0980-73-1978
南城市	健康増進課	098-946-8987
国頭村	保健センター	0980-41-5767
大宜味村	住民福祉課	0980-44-3003
東村	福祉保健課	0980-43-2202
今帰仁村	保健センター	0980-56-1234
本部町	保険予防課	0980-47-5602
恩納村	福祉健康課	098-966-1207
宜野座村	健康福祉課	098-968-3253
金武町	保健福祉課	098-968-5932
伊江村	医療保健課	0980-49-2234
読谷村	健康推進課	098-982-9211
嘉手納町	町民保険課	098-956-1111 (内線139)
北谷町	保健相談センター	098-936-4336
北中城村	健康保険課	098-935-2233
中城村	健康保険課	098-895-2131
西原町	健康支援課	098-945-4791
与那原町	健康保険課	098-945-6633
南風原町	国保年金課	098-889-1798
渡嘉敷村	民生課	098-987-2322
座間味村	総務・福祉課	098-987-2311
粟国村	民生課	098-988-2017
渡名喜村	民生課	098-989-2317
南大東村	福祉民生課保健センター	09802-2-2116
北大東村	福祉衛生課保健センター	09802-3-4567
伊平屋村	住民課	0980-46-2142
伊是名村	保健センター	0980-45-2137
久米島町	福祉課	098-985-7124
八重瀬町	健康保険課保健センター	098-998-1149
多良間村	住民福祉課	0980-79-2623
竹富町	健康づくり課	0980-82-6191
与那国町	長寿福祉課	0980-87-3575

これから受ける検査のこと 子宮頸がん検診



国立がん研究センター

がん対策情報センター がん医療支援部 検診実施管理支援室

協力：厚生労働省行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班

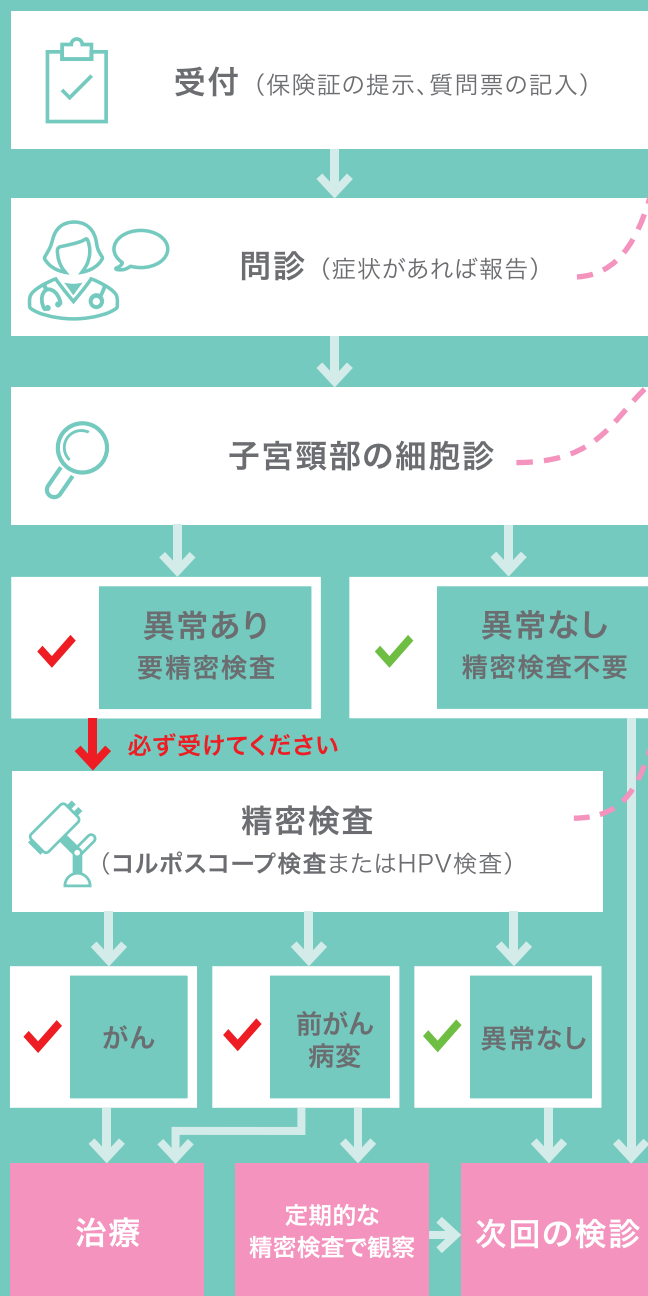
子宮頸がん検診を受ける前に...

子宮頸がんは罹患する人(かかる人)がわが国の女性のがんの中でも比較的多く、また30-40歳代の女性で近年増加傾向にあります。自治体で推奨している子宮頸がん検診(子宮頸部の細胞診)は「死亡率、罹患率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、20歳以上の女性は2年に1度定期的に検診を受診し、「異常あり」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「デメリット」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精検」と判定されることもあります。子宮頸がんは前がん病変も検診で見つけられるのですが、この中には放置しても治療してしまうものも多いために、結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合があります。さらに、検査によって出血などが起こることがあります。

しかし、子宮頸がん検診はこれらの低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されているため、必ず定期的に受診してください。

子宮頸がん検診の流れ



前がん病変が見つかった時には、状態によって治療を行う場合もありますし、治療をせずに医療機関で定期的に経過観察になる場合もあります。

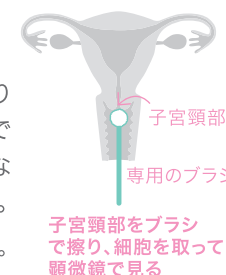
気になる症状がある場合

月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など、気になる症状がある場合は問診の際に医師に必ずお伝えください。不正出血が疑われる症状がある場合は自治体の検診を待たず、すぐに婦人科を受診してください。また現在婦人科を受診し経過観察中の方は自治体の検診ではなく、引き続き受診中の主治医の指示を受けてください。

子宮頸部の細胞診

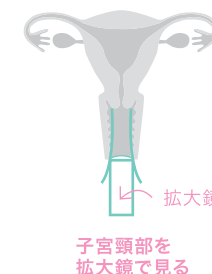
子宮頸がん検診は子宮頸部(子宮の入り口)を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞を取って、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。

*月経(生理)中は避けて検査を受けてください。



精密検査はコルポスコープ検査(またはHPV検査)

細胞診で異常が発見されたらコルポスコープ検査で詳しく調べます。コルポスコープ(腔拡大鏡)を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つかれば、組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。また細胞診の結果によってはHPV検査(子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無を調べます)を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。



検診は20歳以上、2年に1度定期的に行うことが大切です

子宮頸がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず2年に1度、定期的に行うことが大切です。推奨している受診年齢や受診間隔を守らないと、検診の「デメリット」が大きくなってしまいます。